



尾池 雄一氏

熊本大学医学部医学科長

熊本大学医学部医学科の6年間の教育プログラムは、学年ごとに学修の達成レベルがステップアップするようになっており、2014年から診療参加型臨床実習が従来の48週から73週に拡充されました。

1、2年次に基礎医学科目を学修、3年次前半には3カ月間の研究室配属により基礎医学研究の最前線を経験し科学的思考と実践力の涵養を図っています。3年次後半から臨床医学を学修し、4年次にコンピュータを使った試験(CBT)や客観的臨床能力試験(OSCE)を行い、合格者に、臨床実習へ進むために必要な「スチューデント・ドクター」の資格を付与します。その後小グループに分か

診療参加型の臨床実習拡充へ

れ、熊大病院やその他の教育関連病院の各診療科での臨床実習に進みます。

今年6月、日本医学教育評価機構の医学教育認証を受審、1年次からの早期臨床体験実習や地域に根差した臨床実習などが評価されました。

一方で、改善が求められる点としてアクティブラーニングの充実や教育カリキュラムにおける講義の水平、垂直統合の促進などを指摘されました。現在は各課題に対してワーキンググループをつくり改革に取り組んでいます。

当医学科では「豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成し得る医師・医学者を育てる」を使命に掲げています。当医学科の源流である熊本藩の医学学校「再春館」以来の普遍的な理念を受け継ぎながら、現代および将来の課題を盛り込むなど、使命を見直すことも改革の一つとして議論を進めています。